第 5 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　議事録

（要点筆記）

●日　　時：令和 7 年 12 月 18 日(木)　9 時 30 分から 11 時 00 分まで

●場　　所：熊谷市立文化センター文化会館　第一練習室

●次　　第：1. はじめに、開会、挨拶、出席者紹介
2. 議事(1)報告事項　(1)「熊谷市荒川かわまちづくり」計画の登録の報告と
第 4 回協議会のふりかえり
(2) R7 年度社会実験結果の報告
3. 議事(2)意見交換　(1) R8 年度社会実験の企画
(2)都市・地域再生等利用地区の指定に向けた調整
4. おわりに、閉会

●出席者：（出席委員）田中規夫会長、新井賢一副会長、赤沼昇委員
野口一都委員(代理出席：江森勝行氏)
小川義人委員、江原仁委員
（欠席委員）岡部聡史委員、山田廣和委員、原邦夫委員、野口幸雄委員
高橋美香委員、大﨑幸恵委員、須永伊知郎委員

（事務局）熊谷市　建設部河川課
都市整備部公園緑地課
（オブザーバー）荒川上流河川事務所　河川環境課

●資　料：次第
委員名簿/座席表
次第
第５回熊谷市荒川かわまちづくり協議会出席者名簿／座席表
資料１「熊谷市荒川かわまちづくり」計画の登録の報告資料
資料２ 第４回協議会議事要旨
資料３ Ｒ７年度社会実験「荒川水辺の自然体験学習会」の概要
資料４ 荒川水辺の自然体験学習会のアンケート調査結果
資料５ Ｒ８年度社会実験企画（地域交流イベント）検討素案
資料６ 都市・地域再生等利用区域の指定について
別紙１「熊谷市荒川かわまちづくり」計画書

1. はじめに、開会、挨拶、出席者紹介	
事務局	・開会の挨拶。
2. 議事(1)報告事項　1)「熊谷市荒川かわまちづくり」計画の登録の報告と第 4 回協議会のふりかえり	
事務局	・資料 1、2 をもとに、「熊谷市荒川かわまちづくり」計画の登録の報告と第 4 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返りについて説明した。
2）Ｒ７年度社会実験結果の報告	
事務局	・資料 3、4 をもとに、Ｒ７年度社会実験結果の報告について説明した。
委員	・10 年前から「川辺の生き物しらべ」を和田吉野川で 6 月上旬に実施している。教育委員会のウィークエンドサイエンスの行事の一環で行っている。市内の小学生を対象に約 30 人で実施している。参加者には、人気なイベントである。今年度実施の社会実験は継続して続けていただきたい。 ・感想として、熊谷市内の中小河川では、小学生が安全に河川内に入れる場所が少ないため、熊谷市内における生物調査などのイベントが実施できない。可能であれば、子供が安心して川とのふれあいができる場所を作っていただきたい。
委員	・今回の社会実験の実施について、お話をいただく前から、桜木小学校 5 年生は、荒川の環境や防災について 1 年間を通して学習する計画を立てていた。また、林間学校における川の博物館での学習や県立自然の博物館での荒川の成り立ち等の学習を行ってから、この社会実験につなげた。この 1 年で児童は、荒川について詳しくなり、荒川の自然を守るためにどうすればいいかを考えるようになっている。桜木小学校は、このような取り組みに協力できて良かったなと思っている。 ・社会実験の実施時に、他の学年の子供たちが羨ましいと言っていたので、5 年生に対して継続してこのような取り組みを提供できればと思っていますので、ご検討頂きたい。
会長	・人気のイベントのため、ぜひ他学年や他の小学校にも活動を広げ、1 年間を通して自然や生き物を入口に荒川を学習して、清掃活動や文化や防災を学習できるのは、子供たちにとって貴重な経験なので、これを上手く発展させていく取組や発展させ方を考える必要がある。
3. 議事(2)意見交換　1）Ｒ８年度社会実験の企画	
事務局	・資料 5 をもとに、R8 年度社会実験企画 検討素案について説明した。
委員	・防災イベントを実施する場合は、実際に小学校等で備えている防災備品を利用した社会実験の実施が良いのではないか。実際に使うことで防災備品のメンテナンス時期も把握できる。このような、将来を見通した、役に立つ社会実験の観点も必要ではないか。 ・持続して実施するためには、自衛隊等に定期的に協力していただけるよう

	になると良い。こうして、他の団体を巻き込んで広がりのある、先々で人とものが繋がる。スポーツ協会では、例えば、「青空ヨガ教室」など、それぞれの団体や組織にお願いをしておくと継続できると思う。
委員	・メニュー案が多く挙がっているが、広げすぎてもまとまりが付きにくい。もう少しテーマ絞っても良いと思う。 ・防災をメインで行うのであれば、実施にテントを張ってみたり、非常用テントが色んなところに備蓄されているため、それを使ってみる。非常食を実際に食べてみる等ができると思う。ある程度、的を絞って行った方が、効果が上がると思う。 ・最近、熊谷市の熊谷ドームで実際の防災訓練のような取組が増えていると思う。ぜひ、このような体験イベントは意義があると思うので実施していただきたい。
会長	・例えば、自衛隊の利根川水系の水防演習は、大規模で行っている。防災の日のイベントと組み合わせると、土のうを実際に作成して堤防の上に設置する等により発生時に役立つメニュー内容になる。そういった防災イベントと絡めるのも良いと思う。
委員	・色々なプログラムがあり良いと思った。新しいものを入れつつ、人を集めようということなのかなと思う。 ・社会実験の目的について、今年度の新規目的が「プレイヤーの発掘とコミュニティづくり」があり、イベントを立ち上げる事も大変で色々考えないといけないと思う。目的に戻ると、これを実施することで、どうやって新規目的を達成するかが課題になる。参加して解散ではなく、参加した方々のイベント実施後のつなげ方を考える事も重要である。
会長	・現在の計画での対象者としては、どの年齢層を想定しているか。 ・対象者の年齢層によっては、実施するメニューも変わってくると思う。
事務局	・対象年齢について、昨年度実施の社会実験では小学生以上を対象していましたが、今回の計画では、対象を未就学児にも楽しんでいただける内容にしたいと考えポータブル遊具等のメニューを設定している。子供から高齢者まで付き添いのご家族でも楽しめる内容となるようにしたいと考え、メニューを組み合わせることを検討する。 ・プレイヤー同士をつなげる仕組みづくりについて、小学生の保護者同士の繋がりは小学 6 年間で濃いものなっているため、重要と考える。 ・学校の放課後クラブ等の地域で実際に活動されている団体に関わってもらい、実感してもらい輪を広げていきたい。 ・既存の団体を介して広げたい
委員	・放課後子ども教室のコーディネーターがいますので、そういった方々に社会実験の情報が届くようにする必要がある。所管しているのは、教育委員会の社会教育課のため、情報を共有すると良いと思う。 ・社会教育課にも、熱意に差があり、自分たちがやっている活動に繋がって面白いと思ってくれれば、協力の可能性はあると思う。

会長	・小学生や未就学児に関わる一般の方や既存の団体を上手くつなげて、継続性を持たせる。 ・交流が発展していく仮説をもって、取組の試行によって刺激を与えられるそれによって実現力が向上するスパイラルが重要である。
委員	・防災イベントを中心にした場合は、地域の方々を集めるために興味を集めることや行ってみようと思させることを用意することと、来てほしい人たちに来てもらう策が重要である。 ・子供の場合は学校に呼びかければ集まるが、経験のある一生懸命にやっていた人たちは高齢化し、これから非常時に頑張ってほしい人たちは仕事で忙しい。その人たちの休日に参加していただくためにどうした良いかを考えることが、継続して実施するために重要である。
事務局	・新規目的の「プレイヤーの発掘」については、大きな企業等にも声掛けを検討している。 ・今の利活用では、平日は利用が少ない。 ・市が主体でイベントを実施しても、人が集まりにくい現状がある。防災イベントの実施は、自衛隊などにご協力いただくが、キャンプメーカー等の企業にも協力をお願いしたいと考えている。 ・イベントを実施した際の、運営の核となるプレイヤーをしっかり探す必要がある。 ・社会実験は頻繁に実施することは難しいため、社会実験とは別に各委員様の所属する団体に、清掃活動などを実施していただき、年間を通した利活用も考えたい。 ・各市町村にヒアリングをした結果、防災にまつわる取組が多くあったため、横の繋がりを利用してプレイヤーを発掘したいと考える。 ・参考として、くまかんれんでは、毎年 11 月に荒川の恵みを考える集いとして、荒川の河川敷の清掃を行っている。今年も第 28 回を実施し、約 700 人に参加していただいた。子ども会や大手企業、労働組合関係の参加もあり、人を集めるならそういった団体に声をかけると良いと思う。
委員	・防災は、自治会が中心で動いているので、自治会への声掛けも必要である。 ・市の中でも、危機管理課等の防災を担当している部署があるので、そのような関係者も重要である。
会長	・参加者に的を絞って、対象者に応じて声掛けを行う必要がある。
委員	・企業を絡めるためには、企業にとってメリットがある内容が必要である ・参加者へのインセンティブとして清掃活動では、子供向けの参加証を配布している。
2）都市・地域再生等利用区域の指定に向けた調整	
事務局	・資料 6 をもとに、都市・地域再生等利用区域の指定に向けた調整について説明した。
委員	・河川敷に BBQ 会場の設置は、計画に含まれているか。
事務局	・BBQ 会場の特定の施設を作る計画はない。

	・スペースを提供して、BBQ イベントを行うことは可能である。
委員	・清掃活動を実施していると、BBQ のごみを目にする。
	・BBQ イベント等を開催する場合は、対策やルールを決めていただきたい。
事務局	・社会実験の実施において、BBQ について多くの意見をいただいている。現在は BBQ の実施は禁止だが、無断で BBQ をしている等の意見をいただいている。実際は BBQ をやりたいと意見もあり、ワークショップや協議会でルール決めをしっかり行う。そのため、現在は、BBQ 場の整備ではなく、監視体制やルール決めを行いたいと考えている。
会長	・他自治体のかわまちづくりの事例では、協議会が設立してからマネジメントの団体ができるまでに 1 年程度しかたっていないが、協議会の段階で運営の仕組みについて議論があったということでしょうか。
事務局	・他自治体のかわまちづくりの事例は、計画箇所が映画の舞台になっている等の理由により、まちづくりに関する組織が既に存在していた。その組織が、中心となりかわまちづくりの推進を行っている。期間は短く見えるが、実際は事業主体が市以外のところに既にあったという背景がある。
会長	・この事例のような体制を作るのは難しいが、推進部会で体制をどうするか検討が必要である。
	・推進部会は、どのくらいの規模で行うイメージか。
事務局	・現在の協議会と同等の規模で良いと考えている。
	・主体のプレイヤーが決まっていないため、主体のプレイヤーとのつながりによっては、規模感は変わると思う。
事務局	・参考資料 1、2 をもとに、他自治体のかわまちづくり事例と社会実験について説明した。
会長	・事例のように、毎週のように複数の団体がイベントを行う事で、河川敷に行けばイベントがあると市民の方々にチェックしていただけるとようになると良いと思う。
委員	・事例を見ると、将来的には川に入れるようになれば良いと思う。
会長	・今後、協議会とは別の組織として推進部会で協議をして進めるような推進体制で進めることについて、反対意見はないということで、進めて行きたいと思う。
事務局	・他自治体の事例は、イベント実施の公募を行ったが、何ができるのかわからないため募集が少なかった。そのため、事例の収集を行い、皆様にご紹介しようと考えている。
	・今後の進めたかについては、来年 3 月を目途に協議会の実施を予定し、ご報告等でできればと考えている。
	・推進部会の立ち上げにいついて、市より改めて各委員に相談に伺う。

4. おわりに、閉会	
事務局	・社会実験の内容について、貴重なご意見をいただきありがとうございます。配布している資料を見て、他にご意見等ありましたら、事務局までご連絡いただければと思います。 以上



写真-1　協議会　報告事項



写真-2　協議会　意見交換



写真-3　実施メニュー案展示 説明



写真-3　実施メニュー案展示 意見交換